



うすい 白井 すすむ 議員
(進新会)

芝川地区・自治会区割り規模の現状考察について

問 区の大小による長所・短所は。

部長 大きな区は担い手、財源確保が容易で多様な活動が可能。反面、住民の考え方をまとめることが難しい。小さな区は逆であり、住民の顔が見える関係で、まとまりある自治会運営ができる。反面、役員の担い手不足が考えられる。

問 旧市域と芝川地区の比較では、規模大小の差があり過ぎるのではないかと。

部長 一区あたり平均世帯数では差があるが、旧市域にも小さな区は点在しており、一概に芝川区域自治会が小さいとは言えない。

問 自治会役員受任の頻度や、家庭事情等から、担い手不足があるか。

部長 役員負担軽減のため、任期の変更、選出方

法及び行事内容の見直し、統合の相談も含め対応。

問 自治会の統廃合は。

市長 各地域の歴史や伝統の上で、区の存在重視の意識は高い。調査を踏まえ動く。

要望 今回で質問は終結する。今後の議場論戦の充実を願う。熱い一般質問、万歳。



すずき 鈴木 ひろむ 議員
(政経会)

水道事業における「コンセッション方式」などについて

問 人口減少に伴う水道使用量の減少により収益が悪化するというのが富士宮市の場合どうか。

部長 水道使用量は年々減少傾向にあるが、市内大手の複数の事業所より水道の使用量を増やしたいという相談もある。急激な経営状況の悪化という事態は想定していないが、今後の動向を注視していく必要がある。

問 老朽化した管路の更新は計画通りできるのか。

部長 純利益も減少しているが、必要な財源は、12年間借入れを凍結していた企業債を平成31年度より借入れ、未償還残高を増加させないレベルで補てん財源を確保し、水道ビジョンに計画されている更新事業を推進していく。

問 「コンセッション方式」への市長の考えを伺う。

市長 いろいろな疑問や市民の不安が解消されない限り、市民のための重要なライフラインは、市の責任において運営すべきであり、コンセッション方式への移行は考えていない。

キャッシュレス決済への取り組みについて

問 市も小売店のキャッシュレス化を後押しすべきと思うがいかがか。

部長 市としてはキャッシュレス化に関する国の最新情報を入手し、情報提供することで市内のキャッシュレス化を図り、市民の日常生活がさらに便利となる社会の実現を目指していきたいと思っている。



▲スマートフォンでのキャッシュレス決済